

～みなさま衣替えの準備は始めましたか？～

夏も終わり残暑を残しながら、涼しさが訪れ秋の到来を告げる時期ですね！昼の蝉の騒然とした鳴き声から、夜になると秋虫から発せられる静閑な音色に変わり、どことなく哀愁の漂いを感じずにはいられません。さて、今回のしながワールドでは品川区に残るかつ区の指定した、歴史を伝える「品川区指定文化財」の一つである「大正六年銘道標」の紹介です！といわけ下町風情の感じるこの品川区を歩きながら目に付ければ、時代錯誤とは違う歴史に触れ合うことの楽しみを味わうことが出来るでしょう。



過去の道標

～大正六年銘道標とは～

ここ品川区に大正6年(1917年)に建てられた縦約1メートルのぽつんと存在する石柱です。

多数ある品川区にある道標のなかでは最も新しい角柱型の石造の道標となっています。

〇アクセス

- ・住所:品川区西品川3-16-15
- ・最寄り駅:JR 山手線大崎駅より西品川へ
:東急大井町線下神明駅より
横須賀線沿い北側へ



現在の道標

三ツ木台地から**目黒川**に下る**四ッ辻**に向かうと見つけることができます。

現代のように地図アプリを使用して行きたい場所・今いる場所を把握出来ない時代に参考とされたもので、このような道標は現在少なく、大変保存価値のあるものとして品川区が保存をしています。道標の正面には「マエオホ中道」、左側は「マエ ヘビクボ道」、右側は「マエオホサキテイシャバ道」、裏面は「マエキリガヤ道」「大正六年八月吉日」と刻まれています。見かけた際に確認してはいかがでしょうか？